

内容要約

よりよい人間関係をはぐくむために、ソーシャルスキル教育と構成的グループエンカウンターの統合を通して、支援の在り方の工夫を試みた。

児童理解をもとに、学級の実態に即した意図的・計画的なソーシャルスキルトレーニングと構成的グループエンカウンターを統合した支援を行い、よりよい人間関係をはぐくむことを目指した。

活動を通して、児童相互の交流が活発になり、良好な人間関係をつくり保つための知識と具体的な技能が身につき、お互いのよさを認め合うことができるようになった。

【キーワード】 よりよい人間関係 ソーシャルスキル教育と構成的グループエンカウンターの統合
個別的な支援 統合した年間計画

目 次

I テーマ設定の理由	51
II 研究仮説・下位仮説	51
III 研究内容	52
1 よりよい人間関係づくり	52
2 ソーシャルスキル教育について	52
3 構成的グループエンカウンターについて	53
4 ソーシャルスキル教育と構成的グループエンカウンターの統合	53
5 ソーシャルスキルトレーニングと構成的グループエンカウンターを統合した年間計画	54
6 ソーシャルスキルトレーニングの個別的支援	56
IV 授業実践	57
1 主題名	57
2 主題設定の理由	57
3 題材の指導目標	58
4 ソーシャルスキルトレーニングと構成的グループエンカウンターを統合した活動計画	58
5 本時の指導計画	58
6 授業の考察	59
V 研究全体の考察	59
1 人間関係に関する知識や技能の習得とお互いのよさの認め合い	59
2 学級集団へ適応できずにいる児童の変容	60
3 実際の生活場面での活用と感想	60
VI 研究の成果と今後の課題	60
1 成果	60
2 今後の課題	60

＜小学校 教育相談＞

よりよい人間関係をはぐくむ支援の在り方

ーソーシャルスキル教育と構成的グループエンカウターの統合を通してー

糸満市立光洋小学校教諭 崎 原 貴 子

I テーマ設定の理由

教育改革に伴い、学校教育においては、社会の変化に主体的に対応できる能力の育成や創造性の基礎を培い、心豊かでたくましく生きる幼児児童生徒の育成を目指し、基礎・基本の定着を図ると共に、心の教育を推進していくことが大切であると考えられている。『本県教育主要施策』の「学校教育の充実」においても、「これからの社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育成し、自ら学ぶ意欲をもち、心豊かでたくましく生きる幼児児童生徒をはぐくむため、心の教育を推進する」と示されており、豊かな人間性や社会性の育成を図るため、教育活動全体を通して心の教育を推進することが必要だと述べられている。

近年、少子化・核家族化などの急激な社会環境の変化から、人間関係体験や家族生活体験、地域とのかかわりなどの生活体験が不足し始めており、様々な問題を抱える児童が増えてきている。

これまでの実践を振り返ってみると、豊かな心をはぐくむために、各教科や道徳・特別活動などでは、心に響く教材や話を取りあげたり、教育相談では、児童一人一人に向き合い、じっくりと話を聞くなどの様々な努力や工夫を心掛けてきた。ところが、相手の考えや感じ方を十分に理解できない児童、自分の考えや感じ方をうまく伝えることができない児童、身勝手な行動をコントロールできない児童などがおり、「子どもの成長が促せない」「人間関係づくりがうまくできない」などの課題がある。その原因として、それぞれの児童の正しい理解と個に応じた適切な支援ができずにいたことが考えられる。

児童は本来、様々なよさや可能性を秘め、よりよい自己実現を図りたいと望んでいるものである。その自己実現を図るためには、よりよい人間関係をはぐくむことが必要となってくる。よりよい人間関係をはぐくむことのできる子とは、お互いのよさを認め合うことのできる子であり、まわりの人たちとのかかわり合いながら問題を解決できる子であると捉える。よりよい人間関係は、豊かな体験を通して学び、体得していくものであるが、社会環境が変化し家庭や地域での人間関係体験不足が叫ばれる今、学校が人間関係体験を促進する主な場となっている。その人間関係を育てる手だてに、人間関係に関する知識や具体的な技能を身に付けるソーシャルスキル教育と、自己理解・他者理解・信頼体験などをねらう構成的グループエンカウターがある。これには、授業を通して、学級全体を対象に予防的・開発的に取り込む支援と、集団に適応できずにいる児童に対する個別的な支援があるが、これらをうまく組み合わせることで、より効果的に人間関係に関する知識や具体的な技能が身につくものと考ええる。

そこで、学級の実態を把握し、児童理解を図り、より適切な支援の在り方を見いだしていきたい。それをもとに、学校生活の中で、ソーシャルスキル教育と構成的グループエンカウターを統合した支援を行い、人間関係体験を増やしていけば、人間関係に関する知識や具体的な技能が身に付き、更にお互いのよさを認め合い、よりよい人間関係をはぐくむことができるであろうと考え本テーマを設定した。

II 研究仮説

学校生活の中で、ソーシャルスキル教育と構成的グループエンカウターを統合した支援を、意図的・計画的に行えば、人間関係体験が増え、よりよい人間関係をはぐくむことができるであろう。

下位仮説

- 1 児童理解をもとに、授業の中で、意図的・計画的にソーシャルスキルトレーニングと構成的グループエンカウターを統合した支援を行えば、人間関係に関する知識や具体的な技能が身につく、更にお互いのよさを認め合うことができるであろう。

- 2 学級集団へ適応できずにいる児童に、ソーシャルスキルトレーニングで個別的に支援すれば、人との接し方がわかるであろう。
- 3 ソーシャルスキル教育と構成的グループエンカウンターで培った知識や技能を、実際の生活場面に生かすことで、よりよい人間関係をはぐくむことができるであろう。

Ⅲ 研究内容

1 よりよい人間関係づくり

よりよい人間関係は、日常生活の中で周りの人たちとかかわり合いながら、自然にそれを身に付けていくものである。しかし、少子化・地域社会の共同体意識の薄れなどで、人間関係をうまく学ぶ機会が減ってきている。よりよい人間関係とは、お互いのよさを認め合うこと、周りの人たちとかかわり合いながら問題を解決できることであると捉える。その手だてとして、ソーシャルスキル教育（人間関係に関する知識や具体的な技能を身に付ける。）と構成的グループエンカウンター（集団学習体験を通して、自己発見をしながら、行動の変容と人間的な自己成長を図る。自己理解・他者理解・信頼体験などをねらう。）を統合させた取り組みがある。

2 ソーシャルスキル教育について

(1) ソーシャルスキルとは

ソーシャルスキルとは、対人関係を営む技術（コツ）であり、「現在の適応問題を改善し、将来起こりうる精神面の問題に対して、予防的な効果がある。」といわれている。人とうまくかかわれない子は、対人関係を営む技術が未熟であると考えられる。そこで、人間関係に関する基本的な知識と、人間関係に関する具体的・実践的かつ効果的な方法を子ども達に教え、対人的な適応力の向上を図る必要がある。

(2) ソーシャルスキルの構成要素

- ① 人間関係の基本的な知識——・適切な対人行動についての基本的な知識
・人間関係に関する一定のルールやマナー
・対人目標の重要性の判断力
(例：相手を言い負かすことと、友好関係を続けることとどちらがその場の目標として重要なのか判断できる)。
- ② 他者の思考と感情の理解の仕方——・相手の言葉の理解の仕方
・相手の表情や身振りから感情を読み取る方法
- ③ 自分の思考と感情の伝え方——・自分の欲求、考え、感じ方の把握
・状況や雰囲気に合わせて、言葉や表情・身振りでの伝え方
・感情のコントロールの仕方
- ④ 人間関係の問題を解決する方法——・対人的な問題の解決方法

(3) 定着させたいソーシャルスキル

- ① 配慮のスキル・・・対人関係の基本的なマナー
 - 失敗したときに、「ごめんなさい」と言うことができる。
 - 友達が話しているときは、その話を最後まで聞くことができる。
 - 友達の気持ちを考えながら話をするすることができる・・・等
- ② かかわりのスキル・・・人とかかわるきっかけや関係の維持、感情交流を形成する能動的な行動
 - みんなと話をするすることができる。
 - 自分から友達を遊びに誘うとができる・・・等

(4) ソーシャルスキル教育の留意点

- ① 大切な実体験
 - ・子ども達自身がその必要性を理解し、ソーシャルスキルに添った行動をすることにより、友達との関係が良好になったという体験が必要である。
 - ・頭で考えているだけではなく、体験を通して自分なりのコツを身に付けることが大切である。

② 一般化させるための具体的手段

- ・学級の実態に合わせ、学級の児童の8割以上ができるような内容から実施する。
- ・子ども達に、「できた」という体験を積み重ねることが大事である。
- ・学習した内容が、日常でも活用されるための具体的な手段を講じることが、大切である。
- ・日常生活の中で意識しないで自然とできるようになることが最終目標である。

③ ソーシャルスキルの目指すもの

- ・スキルが未熟なため、自由に表現できないマイナス面を是正するために、学習させるものである。

(5) 基本ソーシャルスキルの種類（例）

初級	① あいさつ（あいさつリレー）	② 自己紹介（友達ふやそう）
	③ 上手な聴き方（そうだねゲーム）	④ 質問する（おしえてください）
中級	⑤ 仲間の誘い方（いっしょに遊ぼうゲーム）	⑥ 仲間の入り方（いーれて）
	⑦ あたたかい言葉かけ（あたたかい言葉シャワー）	
	⑧ 気持ちをわかって働きかける（友達ふやそう大作戦）	
上級	⑨ やさしい頼み方（私のお願い）	⑩ 上手な断り方（上手な断り方）
	⑪ 自分を大切にする（勇気をためる自己会話）	
	⑫ トラブルの解決策を考える（解決策がいっぱい・イライラオニを追い出そう）	

3 構成的グループエンカウンターについて

(1) 構成的グループエンカウンターとは

集団学習体験を通して、自己発見をしながら、行動の変容と人間的な自己成長を図るものである。ねらいは、心と心のふれあい体験であり、グループカウンセリングに近い機能を発揮し、自己理解・他者理解やメンバー相互の信頼感や対人関係能力の育成である。

(2) エクササイズ選択上の留意点

- ① ルールややり方がわかりやすく、短時間でもできるもの
- ② 児童の実態や学級集団の実態によって、構成を変えて繰り返しできるもの
- ③ 授業や集団活動でも活用しやすく、日常生活に連続性があるもの

4 ソーシャルスキル教育と構成的グループエンカウターの統合

(1) 統合した取り組みの必要性

近年、教師が様々な努力や工夫をしても「子どもの成長が促せない」「人間関係づくりがうまくできない」などの課題が増えてきている。子どもの成長が促せない原因は、評価の方法や課題の与え方（植物に例えると地上の部分）だけではなく、それまでの生活体験不足（地下の根の部分）にもあるのではないかと捉えた。

これまでの学校教育は、根が十分に張られていることを前提として進められてきた。それで、地上に表れた茎から上の部分に光をあてればよかった。

ところが、核家族化や少子化によって、根となる生活体験（人間関係体験や家庭生活体験、地域とのかかわり）が不足し始めた今、学校教育で生活体験を促進する場を作らざるをえなくなってきた。そこで、ソーシャルスキル教育と構成的グループエンカウターを統合させ、授業を通して、学級全体を対象に学級集団の質の高まりをねらう予防的・開発的に取り組む支援が重要になってくる。また、集団に適応できずにいる児童に対する個別的な治療的支援をうまく組み合わせることで、人間関係体験が増え、より効果的に学級全体のよりよい人間関係を構築することができると考える。

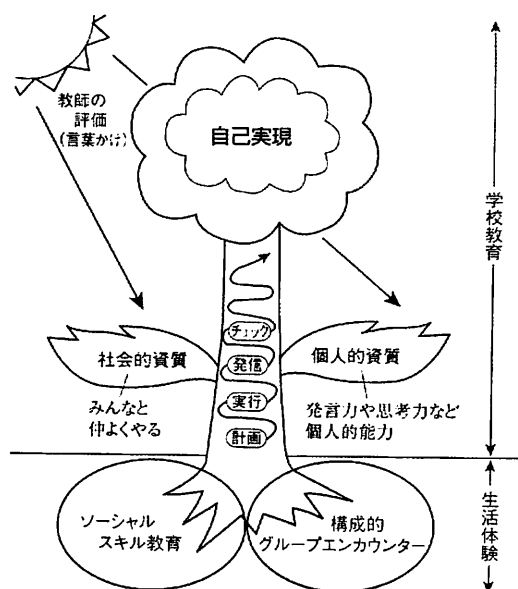


図1 統合した取り組みのイメージ

『ソーシャルスキル教育で子どもが変わる』より

(2) 環境設定としての構成の仕方

- ① 「現在地」を把握する — 学級の児童の実態、学級集団の状態（現在地）を把握する。
- ② 「目的地」を見つける — 児童の発達を援助する上で必要な課題（目的地）を見つける。
- ③ 「方法」を考える — 現在地から目的地へたどりつくための適切な方法（エクササイズの内容、展開の仕方、リーダーの力量など）を考える。

(3) 構成を調整する7つのポイント

- ① 取り組ませる集団の人数・・・2人組から、学級集団全体へなど課題にふさわしい数
- ② 所属するメンバーの構成・・・対立や抵抗の少ないメンバーから、様々な考えをもつメンバーへ
- ③ ルールやメンバーの役割構成度・・・トラブルが生じないように強く構成するものから、最低限のマナーへ
- ④ 活動時間・・・10分位の短めから、2時間を活用したじっくりとした取り組みまで
- ⑤ 活動のレベル・・・レクリエーション的なものを題材にした基本的なスキルから、より高度なスキルアップを目指す心をゆさぶるものへ
- ⑥ 活動内容・・・協力すれば容易に取り組めるものや取り組む手続きが簡単な活動内容から、グループごとにテーマを自主設定し活動するような複雑なより高度なものへ
- ⑦ 交流・行動のレベル・・・役割交流をきっかけにした部分的な感情交流から、自分の考えや価値観をぶつけ合える感情を主体にした交流へ

(4) 統合した取り組みの事例

現 在 地	目 的 地	方 法（☆ターゲットスキル）（★エクササイズ）
ギスギスした クラス	○児童がお互いのことを理解しあえる学級を目指す。	☆基本的なあいさつ（「ありがとう」を言う）☆基本的な聴く態度（最後まで聴く）★質問じゃんけん&探検ごっこ★なんでもバスケット等
	○学級への所属感を高める。	☆集団生活のマナー順守（決めたことを守ろうとする）☆さりげないストローク（うまくいったときに「上手だね」とほめる）☆集団への能動的な参加（みんなのためになることは自分で見つけて実行する）★Xさんからの手紙等
騒がしい クラス	○学級にルールを確立し安心して生活できる学級を目指す。	☆基本的な聴く態度（友達の話は冷やかさない）☆会話への配慮（友達を傷つけない）☆基本的な話す態度（みんなと話す）★団結くずし★ビンゴ等
	○学級生活を楽しいと思えるようにする。	☆集団生活のマナー順守（みんなで決めたことに従う）☆許容的態度（友達の失敗を許す）☆集団への能動的な参加（楽しくなるように盛り上げる）★なんでもバスケット等
おとなしい クラス	○誰もが認められ、楽しい学級づくりを目指す。	☆許容的態度（友達の失敗を許す）☆さりげないストローク（元気のない友達を励ます）☆集団への能動的な参加（楽しくなるように盛り上げる）★なんでもバスケット等
	○誰もが認められ、誰もが活躍できる学級づくりを目指す。	☆対人関係のマナー順守（秘密は守る）☆感情表出（身振りや手振りを使って話す）★すごろくトーキング等

5 ソーシャルスキルトレーニングと構成的グループエンカウンターを統合した年間計画

(1) 年間計画作成と実践上の留意点

- ① 初級－中級－上級と、段階をおって構成していく。
- ② 各学期の始めには、学年・学校全体で共通実践することが望ましい、基本的な内容の「あいさつ」「上手な聴き方」「自己紹介（他者理解・自己理解）」を取り入れる。
- ③ 低学年は、時間をかけて繰り返し実践できるよう、取り扱う期間を長く設定する。
- ④ 中・高学年は、確認する程度の短時間での取り組みも可能にする。
- ⑤ 基本形を押さえた上で、学級集団の実態に応じて、展開の仕方を工夫する。

(2) ソーシャルスキルトレーニングと構成的グループエンカウンターを統合した年間計画（別紙）

ソーシャルスキルトレーニングと構成的グループエンカウンターを統合した年間計画

	4 月	5 月	6 月	7 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
一 年	あいさつ				あいさつ	ふわふわ言葉とチクチク言葉			あいさつ	質問する	
	自己紹介				自己紹介	質問する			自己紹介	仲間の誘い方	
	上手な聴き方				上手な聴き方			上手な聴き方			
	こおりおに（体）・「はしの上のおおかみ」とありがとうカード				世界のあいさつ（国）・あくしゅでさよなら・友だちビンゴ			ほめほめ賞（図）・たからものこと話ます（国）			
二 年	あいさつ	仲間の誘い方・仲間の入り方			あいさつ	質問する			あいさつ	あたたかい言葉かけ	
	自己紹介	質問する			自己紹介	仲間の誘い方・仲間の入り方			自己紹介	ありがとうっていいな（道）	
	上手な聴き方				上手な聴き方		うれしい話の聴き方（国）		上手な聴き方		
	ファーストネームゲーム・質問じゃんけん				なんだなんだどれだ・友だち発見クイズ（生）			二人で問題づくり（算）・すごろくトーキング			
三 年	あいさつ	仲間の誘い方・仲間の入り方			あいさつ	質問する	あたたかい言葉かけ		あいさつ	あたたかい言葉かけ	
	自己紹介	質問する			自己紹介	仲間の誘い方・仲間の入り方			自己紹介	やさしい頼み方	
	上手な聴き方		あたたかい言葉かけ		上手な聴き方	気持ちをわかって働きかける			上手な聴き方	気持ちをわかって働きかける	
	友だち、大好き！・わたしのニュースを聞いて（国）				グループ学習のまとめ（社）・なりきりインタビュー（国）			その気持ちわかるよ・好きな物好きなこと			
四 年	あいさつ	仲間の誘い方・仲間の入り方			あいさつ	質問する	あたたかい言葉かけ		あいさつ	あたたかい言葉かけ	
	自己紹介	質問する	気持ちをわかって働きかける		自己紹介	気持ちをわかって働きかける			自己紹介	自分を大切にする	
	上手な聴き方		あたたかい言葉かけ		上手な聴き方	やさしい頼み方・上手な断り方			上手な聴き方	仲間の誘い方・仲間の入り方	
	なんでもバスケット・いいところ探し				有名人にインタビュー・四面鏡			だれのせい（道）・すごろくトーキング			
五 年	あいさつ	あたたかい言葉かけ			あいさつ	あたたかい言葉かけ			あいさつ	あたたかい言葉かけ	
	自己紹介	質問する	気持ちをわかって働きかける		自己紹介	気持ちをわかって働きかける			自己紹介	自分を大切にする	
	上手な聴き方	仲間の誘い方・仲間の入り方			上手な聴き方	やさしい頼み方・上手な断り方			上手な聴き方	トラブルの解決策を考える	
	友だちづくりの会話・わたしの国際交流（総）				「4つの窓」キャンプファイヤー・リレー物語（国）			家庭の仕事（家）・自慢の我が子			
六 年	あいさつ	あたたかい言葉かけ	上手な断り方		あいさつ	あたたかい言葉かけ	自分を大切にする		あいさつ	あたたかい言葉かけ	
	自己紹介	質問する	やさしい頼み方		自己紹介	やさしい頼み方・上手な断り方			自己紹介	自分を大切にする	
	上手な聴き方	気持ちをわかって働きかける			上手な聴き方	トラブルの解決策を考える			上手な聴き方	気持ちをわかって働きかける	
	世界の国バスケット（社）・仲間はすれのロールプレイ				たたかい終えて（体）・私の国はどこでしょう（総）			一本の木（理）・すごろくトーキング			

- 明朝体は、ソーシャルスキルトレーニング。ゴシックは、構成的グループエンカウンターである。
- ゴシックで斜体の太字は、1時間の中にソーシャルスキルトレーニングと構成的グループエンカウンターを統合した内容である。
- () は、扱う教科や領域を示す。無いものは、学級活動や朝の会・帰りの会などで実施する。

6 ソーシャルスキルトレーニングの個別的支援

(1) 学級集団へ適応できずにいる児童への特別な支援の在り方

具体的 な ス キ ル を 身 に 付 け さ せ る	自 分 や 相 手 の 気 持 ち を 理 解 さ せ る	対人関係	① 基本的な対人関係のスキルを身につけさせる。 ② 心の支えとなる存在としての親しい友達づくりを目指す。 ③ 小集団で遊ぶ場面を意図的に設定し、遊ぶ楽しさを味わわせる。
		共感する	① 表情やしぐさに着目させ、どんな気持ちであるかを理解させる。 ② 登場人物の立場（状況）や気持ちについて具体的に理解させる。 ③ ロールプレイを通して、自分や他者など立場の気持ちを体験させる。 ④ 相手の気持ちを考えて、適切な行動のとり方を具体的に教える。
		協調する	① 相手の指示や援助を受け入れることを経験させる。 ② 周りの状況に合わせて、活動することを身に付けさせる。 ③ 具体的な場面を設定し、お手伝いの仕方を身につけさせる。
		社会的責任を果たす	① 係や当番の仕事内容や手順を、文字や絵等で具体的に理解させる。 ② 係や当番の仕事ができるよう、繰り返し習慣的に身に付けさせる。 ③ 遂行困難なときに、他者に援助を求めることができるような表現（言葉や動作など）を身に付けさせる。
		価値意識の理解	① 基本的な善悪の概念について理解させる。 ② 日常生活場面で、「してよいこと」「してわるいこと」を理解させる。 ③ 自分の行動について振り返らせ、具体的な場面を想定して「してよいこと」「してわるいこと」等について考えさせる。 ④ 望ましい行動が具体的に身に付けられるようその場で習得させる。

(2) 児童の特徴と支援の方針と実際

	衝動的な行動が多いAさん	適切な言動がとれないBさん
特 徴	○他者への気持ちの理解、自分の言動の振り返りに乏しい。 ○他者の言葉や視線、又は、自分の伝えたいことが相手に伝わらないときにカッとなり、衝動的な行動に出る。	○他者への攻撃的な行動が見られ、コミュニケーション能力の未熟さが考えられる。 ○他者の言葉に強くこだわりをみせることがある。衝動的に他者をたたいたり突き飛ばしたり、あえて嫌な言葉を使うことがある。
支 援 方 針	①状況や場面に応じた適切な言動の仕方を習得させる。 ②自分の言動による周りの人たちへの影響（他者の気持ち）について理解できるようにする ③クラスの友達に対して、Aさんの苦手さについて理解を深め、情緒不安定にならない接し方などを配慮できるようにする。	①情緒の安定を図ると共に、他者に対する攻撃的な行動を抑制できるようにしていく。 ②状況や場面に応じた適切な言葉遣いや行動の仕方を指導していく。 ③他者に対する不適切な行動に関しては約束したことを見えるように文字化して提示し、適宜、一緒にチェックする。
支 援 の 実 際	①自分の言動の影響を考えさせ、相手の気持ちを理解する。 ②葛藤場面での処理法を習得する。 ③心の支えとなる存在としての親しい友達をつくる。 ④Aさんの苦手さを理解し、クラスでどのように援助していくかを考えさせる。	①望ましい言動と望ましくない言動を区別する ②望ましい行動のめあてをつくる。 ③心の支えとなる存在としての親しい友達をつくる。 ④支援体制を充実させる。 ・周りの子ども達の理解と協力 ・保護者の協力
ス キ ル	☆“怒り”とは何か ☆怒り方を教える手順 ☆不快な気持ちの静め方（感情コントロール） ☆プレイバック法の活用 ☆トラブル解決の手順を考える ☆仲間の誘い方 ☆仲間の入り方 ☆やさしい頼み方 ☆気持ちをわかって働きかける	☆“怒り”とは何か ☆怒り方を教える手順 ☆不快な気持ちの静め方（感情コントロール） ☆プレイバック法の活用 ☆トラブル解決の手順を考える ☆やさしい頼み方 ☆仲間の入り方 ☆あたたかい言葉かけ ☆気持ちをわかって働きかける

Ⅳ 授業実践

1 主題名 『 よりよい人間関係づくり 』

2 主題設定の理由

(1) 題材観（省略）

(2) 児童観

① 学級の実態

本学級は、比較的眞面目で物静かな思いやりのある児童が多く、学級全体としては、まとまりのあるクラスである。反面、積極性や伸びやかさに欠け、活気や表現力が乏しいとも捉えられる。

また、交友関係が固定化しつつあり、気の合う仲間同士では、明るく楽しく過ごせるが、なかなか仲間の輪を広げることのできない傾向がある。

10月下旬実施した心理検査（Q-Uアンケート）の学級満足度尺度の結果によると、学級生活満足群が28％（全国37％）、非承認群が16％（全国21％）、侵害行為認知群が28％（全国17％）、学級生活不満足群が28％（全国25％）である。以上のことから、学級に満足感の持てない児童が72％もいることが浮き彫りになった。特に、「つらい思い（言葉）をしている。」「自分が発表するとき冷やかされたりする。」「一人ぼっちでいることがある。」「グループに入れないで残ってしまう。」などの項目に、その傾向がみられる。さらに、要支援群に属し「学級内で孤立し友人からのサポートも得られていない。」と感じている児童や、侵害得点が高く「いじめや悪ふざけを受けている。」と強く感じている児童もいる。

学校生活意欲尺度の結果からは、友達関係9.7（全国7.8）、学習意欲10.0（全国8.7）、学級の雰囲気9.4（全国8.6）といずれも平均値を上回り、バランスのとれた学級であるといえる。特に、「もっと勉強ができるように努力している。」52％（全国26.7％）「できなかったことができるとうれしい。」88％（全国63.2％）など、学習意欲の面で望ましい感情をもっている児童が多い。反面、「クラスの人とは声をかけたり親切にしたりしてくれる。」13％（全国29.8％）「クラスは協力し合っていると思う。」16％（全国18％）などの友達関係や学級の雰囲気の面に望ましい感情を持っている児童が比較的少ない傾向もみられる。

そのため、よりよい友達関係を構築したり、学級の雰囲気をよくするための支援を行う必要があると考える。

② 抽出児童の実態

Aさんは、初対面の人には、人なつっこい笑顔で対応する。しかし、クラスの中では、特定の友だちの名前しか知らず、交友関係が限られている。普段は穏やかだが、カッとなると、声を荒立てたり、物を投げたり、教室を飛び出したりすることがある。Q-U検査の結果によると、学校生活意欲プロフィールでは、「学習意欲」は高いが、「友達関係」「学級の雰囲気」の得点が低い。学級満足度・学校生活意欲のまとめでは、学級生活不満足群に属し、その中でも要支援群の児童として個別的な支援が必要な児童である。

Bさんは、友達とうまくかわりたいたいのだが、どうかかわっていいのかわからないようである。そこで、あえて攻撃的な態度（手を出したり、その人が気にしている嫌な言葉を言ったりする）をとる。相手がそれに反応すると、さらに、嫌がる言動をとる。気になる子には、特にそういう態度にでることが多い。学習意欲がほとんどなく、授業中は、手いたずらが絶えない。Q-U検査の結果によると、学級生活不満足群に属しているが、個別的な支援が必要な児童との判定は出ていない。

(3) 指導観

児童の実態から、学級全体を対象に予防的・開発的な取り組みの支援として、良好な人間関係をつくり保つための知識と具体的な技術やコツを身に付ける「あいさつスキル」「上手な聴き方スキル」「あたたかい言葉かけスキル」「気持ちをわかって働きかけるスキル」などのソーシャルスキル教育の基本スキルと、「自己理解」「他者理解」を効果的に効率よくねらうことのできる、構成的グループエン

カウンターを統合させた取り組みをしたい。

一方、集団に適応できず学級内で孤立し、友人からのサポートも得られていないと感じている要支援群に属する児童や、侵害得点が高くいじめや悪ふざけを受けていると強く感じている児童への、個別的な援助や助言などの働きかけとしては、「トラブルの解決策を考えるスキル」「自分を大切にするスキル」や、怒りやすい子に対する「怒り」とは何か」「怒り方を教える手順」「不快な気持ちの静め方」「トラブル解決の手順を教える」などを取り入れていきたい。

このように、授業を通して学級全体を対象に予防的・開発的に取り組む支援と、要支援群に属する児童や、侵害得点が高くいじめや悪ふざけを受けていると強く感じている児童への、個別的な援助や助言などの働きかけを、うまく組み合わせることで、より効果的に人間関係に関する知識や具体的な技能が身につく、お互いのよさを認め合い、よりよい人間関係をはぐくむことができるであろうと考える。ソーシャルスキルの習得には、構成的グループエンカウンターと同様、グループでの体験活動が必要である。思考だけではなく、実際に数多くの体験活動を通して、自分なりのコツを身に付けていけるようにさせたい。また、学習した内容が、日常でも活用されるための具体的な手だてを講じることも大切にしていきたい。

3 題材の指導目標

ソーシャルスキル教育と構成的グループエンカウンターを統合した活動を取り入れることで、自己理解・他者理解を図ると共に、人間関係づくりを効果的に行う知識や技能を身に付けさせる。

4 ソーシャルスキルトレーニングと構成的グループエンカウンターを統合した活動計画（別紙参照）

5 本時の指導計画（6 / 7）

(1) 題材名 あたたかい言葉シャワー

(2) ねらい

- 「うれしい気持ちになる言葉」と「嫌な気持ちになる言葉」があることを知る。
- あたたかい言葉かけをしたり、されたりする体験を通して、そのよさを味わうことができる。

(3) 授業の仮説

- あたたかい言葉かけをしたり、されたりする体験を通し、そのよさを味わうことができる。

(4) 準備資料

うれしい気持ちになる言葉・嫌な気持ちになる言葉 ・いいとこさがしカード（付箋紙）
 いいとこさがしシート（画用紙）・心を伝える話し方・あたたかい言葉かけの例
 あたたかい言葉シャワー（ふり返りシート）・ あたたかい言葉かけカード

(5) 本時の展開

場面	過程	教師の指示・発問（○）と 児童の反応・行動（☆）	教師の支援・留意点
イン ス ト ラ ク シ ョ ン	問 題 を 持 つ	○今日はいつも使っている言葉について考えます。みなさんは、自分の言葉で、友達がどんな気持ちになるか考えたことがありますか。	
		○友達に言われた言葉で、うれしくなったり嫌な気持ちになったりしたことはありませんか。	
		☆うれしい気持ちになる言葉（ありがとう・おめでとう・上手だね・優しいね・頑張ってるね・大丈夫？など）	
		☆嫌な気持ちになる言葉（へたくそ・でぶ・最低など）	
		○そうですね。言われる言葉によって心があたたかく元気になったり、冷たく元気がなくなったりします。あたたかい言葉とはどのような言葉でしょう。	* 「うれしい気持ちになる言葉」と「嫌な気持ちになる言葉」があることに気づかせる。
		☆あたたかい言葉とは、言われてうれしくなる言葉です。	
		○あたたかい言葉には、「ほめる言葉」「励ます言葉」「心配する言葉」「感謝する言葉」などがあります。	* 「あたたかい言葉」を提示する。
		○今日は、「あたたかい言葉をかけることのできる人になろう。」をめあてに活動します。	* めあてを確認をする。
8		○あたたかい言葉とは、どのようにかければいいのでしょうか。	

モ	デ	リ	グ	ン	ク	12	○これから先生が、2つの言葉かけをしてみます。誰か相手をしてくれる人はいませんか。 ○では、一つ目の言葉かけでやってみます。 — 感情語を入れず、「その人の様子」だけを言う。 ○では、もう一つの言葉かけでやってみますね。 — 感情語を入れず、「その人の様子+感情語」も付け加えて言う。 ○ありがとうございます。とても上手に相手をしてくださいました。◇◇さんは、二つの言葉かけをされて、どんな感じがしましたか。 ☆初めの言葉かけ（その人の様子だけ）は、少しうれしかった。 ☆二回目の言葉かけ（その人の様子+感情語）は、とってもうれしかった。 ○このように、あたたかい言葉かけとは、すごいねという気持ちで相手をほめたり、ありがとうと相手に感謝したりする言葉です。それを「その人の様子（いいところ）+感情語」で言ってみます。 ○感情語とは、すごいね・ありがとう・うれしいなどです。そうです。それは、さっきみんなから出た『うれしい気持ちになる言葉』なのです。 ○では、「その人の様子（いいところ）」に「感情語」を加えて、みんなで読んでみましょう。 ☆「クロールで25メートル泳げるんだね。○○○○○。」 ☆「昨日は、荷物を持ってくれたね。○○○○○。」 ○このように、「その人の様子」に「感情語」を加えて、伝えたらあたたかい言葉かけになります。そこで、先生は次の4つに気をつけながら、言葉かけをしました。 ○「心を伝える話し方」を確認する。 ① 相手をきちんと見る。 ② 相手の名前を言う。 ③ 聞こえる声で言う。 ④ 笑顔で言う。	*「心を伝える話し方」を明確に行う。 ① 相手をきちんと見る。 ② 相手の名前を言う。 ③ 聞こえる声で言う。 ④ 笑顔で言う。 *二つの言葉かけの違いについて指摘させる。
リ	ハ	サ	ス	ル	15	○では、あたたかい言葉かけの名人になるための練習をしましょう。グループになってやってみます。 ○「心を伝える話し方」を意識して、グループの人にあたたかい言葉かけをしましょう。 ○前に作った「いいとこさがしカード」のその人の様子に、感情語を加えて、続けて言ってみましょう。 ○ジャンケンをして言ってもらった順番を決め、残りの人が一人ずつ順番よくあたたかい言葉かけをします。始め！ ☆「○○さんは、バスケットがとても上手ですね。すごいですね。」 ☆「○○くんは、本を読むのが上手ですね。私も○○くんのように上手になりたいです。」 ☆「○○さんは、ベアの人々が休んだときに給食当番を手伝ってくれました。助かりました。ありがとうございます。」	*いすを円座にし、グループのメンバーが向き合う。 *様子を見て練習タイムをとる。 *各グループをまわり、支援する *時間があれば、その場で思いついた内容でも、やってみる。	
フ	振	イ	リ	ド	返	バ	○あたたかい言葉かけをしてもらって、今どんな気持ちがしていますか。 ☆うれしい ☆やる気がでる ☆またやろう ☆ちよっと照れくさい ○あたたかい言葉かけには、これ以外にも、困っている人に対して、「何か困っていることがあるみたいだね。大丈夫。」と心配したり、頑張っている人に対して「△△を頑張っているんだね。+応援しているよ。」と励ましたりすることがあります。 ○今日の活動をしての感想をふり返りシートに書きましょう。 ○これからも、今日の学習を生かして、学校やお家などであたたかい言葉かけの名人になりましょう。 ○学校やお家でやったら、『あたたかい言葉かけカード』に記入してみましょう。お家の人からのメッセージももらってね。 ○あたたかい言葉かけ名人になって、「友達ふやそう大作戦」を成功させましょう。	*時間をかけて、共感する。 *板書し、始めに説明したものといっしょにまとめる。 *家族やまわりの人にも実践できるよう促す。 *「あたたかい言葉かけカード」を配り、定着を図る。

6 授業の考察

(1) 仮説の検証

図2は本時の振り返りである。「あたたかい言葉かけのよさがわかりましたか」の問いに、「よくわかった」と答えた児童が85%、「だいたいわかった」と答えた児童が15%で、全員が生きて生きと楽しく活動に参加していた。

そのことから、あたたかい言葉かけをしたり、されたりする体験を通し、そのよさを味わうことができたことがわかる。

(2) 抽出児童の発言

【Aさん】 交友関係に限られており、カッとなると声を荒だてたり、物を投げたり、教室を飛び出したりすることがあったが、「あたたかい言葉かけをしてもらって、とても気持ちいいし、とてもうれしかった。」「あたたかい言葉かけは人をうれしくするし、がんばる気持ちになるからいい言葉だ。」「これからはたくさん使っていきたい。」と振り返りカードに書き、生き生きと活動していた。

【Bさん】 友達とどうにかかわっていいのかわからず、あえて攻撃的な態度（手を出したり、嫌な言葉を言ったりする）をとることがあったが、「あたたかい言葉かけをもらって、自分にもこんなにいいところがあったんだ。」と自分のよさを見つめ直していた。また「あたたかい言葉かけをしたら、とても気持ちよかった。」「これからは言葉に気をつけたい」とやる気をみせていた。

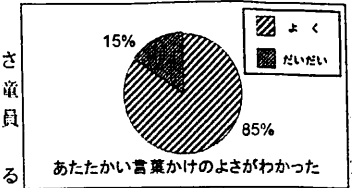


図2 本時の振り返り

V 研究全体の考察

1 人間関係に関する知識や技能の習得とお互いのよさの認め合い

(1) ソーシャルスキルトレーニングと構成的グループエンカウンターを統合した実践の結果

月日	題材名・種類	ねらい(○)・獲得目標とするスキル(*)	感想・とても 15% 85% 100%
11/12	なんでもバスケット 他者理解 (エンカウンター)	○楽しさを共有できる活動を取り入れて、全員で一つのことを楽しめる雰囲気をつくる。積極的に感情表現できることを目指す。	とても楽しかった。またやりたい。好きなことが同じ人がたくさんいてうれしかった。
11/14	最高にうれしい 「あいさつ」リレー あいさつ (ソーシャルスキル) 自己理解 (エンカウンター)	○あいさつは良好な人間関係をつくるための一歩である。あいさつの仕方を身につけ、いいあいさつを体験することで、心地よさを味わい、進んであいさつができるようにする。 *①だれにでもあいさつできる。②相手の目を見ていう。③元気な声ではっきりとあいさつする。	いいあいさつがわかった 94% いいあいさつができた 91%
(2)		【考察】94%の児童がいいあいさつの仕方がわかり、91%の児童がいいあいさつができたことと答えている。あいさつリレーをすることで、楽しみながらいいあいさつをすることができた。	
11/26	いいところ四面鏡 自己理解 (エンカウンター)	○いいところをみつけて伝え合う活動を通して、友達のよさに気づいたり、改めて自分のよさを見つめ直すことを目指す。	友達のいいところを探して書くのが楽しかった。自分のいいところが改めてわかってよかった。
12/2	元気の出る聴き方 上手な聴き方 (ソーシャルスキル)	○聴き方は、集団で生活するうえでも基本的なスキルである。ルールを明確化して体験することで、改めて聴き方を身につける。 *①話す人に体を向ける。②話す人を見る。③あいづちをうつ。④最後まで聴く。⑤質問する。⑥相手の言いたいことを繰り返す。	上手な聴き方がわかった 82% 上手な聴き方ができた 79%
(4)		【考察】上手な聴き方がわかった児童は82%で、上手な聴き方ができた児童は79%である。できなかった児童は、「質問する」や「相手の言いたいことを繰り返す」が少し難しかったようである。	
12/4	友達つくり大作戦 気持ちをわかって 働きかける (ソーシャルスキル)	○友情は喜びを2倍に、悲しみを半分にする。共感するという体験を通して、他者と共に生き、他者を大切にすることを育てる。 *①相手の言動から、気持ちを知る。②同じように感じている自分の気持ちに気付く。③「私も+感情語」で自分の気持ちを表す。	共感する言葉かけがわかった 85% 共感する言葉かけができた 64%
(5)		【考察】共感する言葉かけがわかったと85%の児童が答えているが、実際に共感する言葉かけができたのは64%の児童しかおらず、現時点では、「気持ちをわかって働きかける」は、少々難しかったようである。	

12/6	あたたかい 昌彦シャワー あたたかい言葉かけ (ソーシャルスキル) 自己理解 (エンカウンター)	○あたたかい言葉かけは、人間関係もあたたかくする。あたたかい言葉とは何かを知り、あたたかい言葉をかけ合う体験を通してそのよさを味わう。 *①相手に近づく。②相手をきちんと見る。③聞こえる声で言う。④笑顔で言う。⑤あたたかい言葉かけ「相手の様子+感情語」がわかる。	いろいろな人にあたたかい言葉をかけてあげたい。あたたかい言葉かけをすると、友達もにこにこしてうれし。これからも、あたたかい言葉かけをどんどんしていきたい。
12/11	すごろくトークキング 自己理解 (エンカウンター) 話す・聴くスキル (ソーシャルスキル)	○学級の友達一人一人のことを知ろうという気持ち、積極的な自己開示をしようとする気持ちなど、相互理解を目指す。 *人前で話す訓練や聴く訓練の効果も期待できる。	友達の話聴くのがとても楽しくて、わくわくした。自分の番の時はどきどきしたけれど、みんな真剣に聞いてくれたのでとてもうれしかった。

(2) Q-Uの結果と考察

図3と図4は、ソーシャルスキルトレーニングと構成的グループエンカウンターを統合した活動の、実施前(10月25日)と実施後(1月24日)に行ったQ-Uの検査結果をまとめたものである。

実施前は、侵害行為認知群・学校生活不満足群・非承認群など学級に満足感の持てない児童が 72% いることがわかった。特に、「言葉でつらい思いをしている」「発表する時冷やかされたりする」「一人ぼっちでいることがある」などの児童が多い傾向があった。そこで、『あたたい言葉かけ』『上手な聴き方』『気持ちをつわかって働きかける』などのトレーニングやエクササイズを取り入れた。

実施後の図3の学級生活満足度尺度の結果は、学級生活満足群の児童が28%から69%に増えた。また、学級生活不満足群の児童が28%から3%、侵害行為認知群の児童が28%から16%、非承認群の児童が16%から13%へと減っている。

図4の学校生活意欲プロフィールは、どの項目も全国平均値を上回り、バランスのとれた学級であるが、実施前よりも、学級の雰囲気はか9.4から10.7、友達関係は9.7から10.3、学習意欲は10.0から10.5へと更に高まった。このことから、ソーシャルスキ

ルトレーニングと構成的グループンカウターを統合させた取り組みを実践することで、お互いを認め合い、学校生活に満足感を感じている児童が増えていることがわかる。

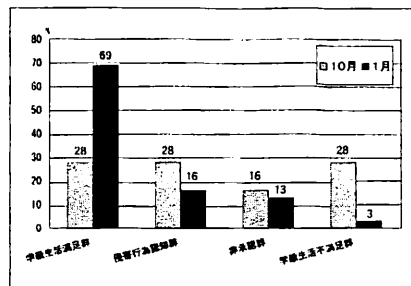


図3 学級満足度尺度

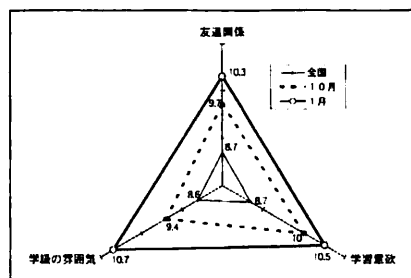


図4 学校生活意欲プロフィール

2 学級集団へ適応できずにいる児童の姿容

	衝動的な行動が多かったAさん	適切な言動がとれなかったBさん
観察	けんかやトラブルが減ってきた。感情をコントロールすることが、できるようになってきた。友達と進んでかわり、仲良く遊ぶことができるようになってきた。	攻撃的な言動が減ってきた。進んで友達とかわり、交友関係を広げる努力をしている。表情が明るく穏やかになり、学習にもやる気が見られるようになってきた。
Q U の 結 果	実践前は、学級生活不満足群の要支援群の児童として「個別的な支援が必要な児童」であったが、実践後は、学級生活不満足群には属していない。また、「被侵害得点」が22から12に減り、「承認得点」が12から14へと増えている。特に、「一人ぼっちでいることがある」が4から1へ減り、「気持ち悪わってくる人がある」が1から4へ増えている。	実践前は、学級生活不満足群に属していたが、実践後は、学校生活満足群へと劇的な変化を遂げた。「被侵害得点」が14から6に減り「承認得点」が14から21へと増えている。特に、「つらい思い（言葉）をしている」と「つらい思い（暴力）をしている」が4から1へ減り、「クラスの人が励ましてくれることがある」が1から4へ増えている。

3 実際の生活場面での活用と感想

資料1は、あたたかい言葉かけの授業を終えての実践の様子である。児童の声として、「心を伝える話し方をして相手に伝わったとき、とてもうれしかったです。」「友達にあたたかい言葉かけをしたら、自分もいい気持ちになりました。これから、みんなにあたたかい言葉かけをしたいです。」などがある。実践カードに記録することで、回数多く実践しようとする意欲が高まることがわかった。また、保護者の声としては、「学校での様子をよく話してくれるようになり、楽しそうです。言葉は人と人の心をつなぎ仲よくすることができるので、これからもあたたかい言葉かけができるようになってほしいです。」「あたたかい言葉かけをするということは自分も相手もうれしい気持ちになると思うので、これからも続けてほしいです。人からもらう幸せでなく、人のためにできる幸せを見つかるためにも、この取り組みがきっかけになってくれたらいいと思います。」などがある。保護者からメッセージをもらうことで、家庭との連携を図ることができ、日常の継続的な実践として、より実態の生活場面に生かせることがわかった。

VI 研究の成果と今後の課題

1 成果

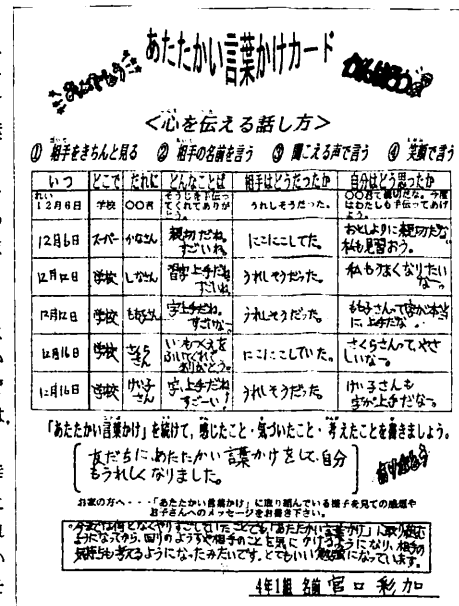
- (1) Q-Uを通して、学級や抽出児童の実態を把握し、児童理解を深めることができた。
- (2) Q-Uの結果から、学級生活満足群が増えたことで、学級の実態に即した、意図的・計画的なソーシャルスキルトレーニングと構成的グループエンカウンターを統合した支援を行うことは、よりよい人間関係をはぐむうえで有効であることがわかった。
- (3) ソーシャルスキルトレーニングと構成的グループエンカウンターを統合した支援を行うことで、児童相互の交流が活発になり、良好な人間関係をつくり保つための知識と具体的な技能が身につき、お互いのよさを認め合うことができるようになった。
- (4) 実践カードに記録することで、回数多く実施しようとする意欲が高まった。
- (5) 保護者からのメッセージをもらうことは、家庭との連携を図る一方法となった。

2 今後の課題

- (1) 個別的な支援が必要な児童に対する支援の工夫
- (2) 学年や学校での組織的な取り組み
- (3) 家庭との連携を図った日常の継続的な実践化

＜主な参考文献＞

年刊分康孝監修	『ソーシャルスキル教育で子どもが変わる』	図書文化	1999 年
河村茂雄編著	『グループ体験による学級育成プログラム』	図書文化	2001 年
年刊分康孝監修	『エンカウンターで学級が変わる Part 3』	図書文化	1999 年



資料1 あたたかい言葉かけ実践カード